審議ポイント標準項目一覧

資料 5

【再評価】

※注1）事業費：上段は今回、下段は（前回）

事業名	NO	県	事業箇所名	評価対象理由	前回評価時の評価理由	前回評価年	事業化用地着工工事着工	概成目標年	事業費（億円）※注1）	進捗率	費用便益比 B／C 今回	費用便益比 B／C 前回	純現在価値 NPV（億円）	経済的内部収益率 EIRR	社会情勢の変化	備考
河川	1	秋田	雄物川直轄河川改修事業	その他	―	―	S63	H30	1,016	55%	1.6	―	723	5.6%	・雄物川流域では、近年発生した昭和62年8月洪水、平成14年8月洪水、平成19年9月洪水においても床上浸水など、多大な洪水被害があり、地域社会に大きな影響を与えており、依然として河川改修の要望は強い。	・当事業では、雄物川水系で近年多大な洪水被害を受けた昭和62年8月洪水と同規模の洪水による被害を解消すること目標として整備を行い、治水安全度の向上を図ります。
河川	2	山形	赤川直轄河川改修事業	その他	―	―	H11	H28	65	57%	1.4	―	33	5.6%	・昭和44年8月洪水、昭和62年8月洪水、平成2年6月洪水等により赤川流域では床上浸水など、多大な洪水被害を受けており、地元の河川改修の要望は強い。流域内では工場が建ち、宅地化が進んできている。	・当事業では、赤川水系で近年多大な洪水被害を受けた昭和44年8月洪水実績相当を目標として整備を行い、治水安全度の向上を図ります。

事業名	NO	県	事業箇所名	評価対象理由	前回評価時の評価理由	前回評価年	事業化用地着工工事着工	概成目標年	事業費（億円）※注1）	進捗率	費用便益比 B／C 今回	費用便益比 B／C 前回	純現在価値 NPV（億円）	経済的内部収益率 EIRR	社会情勢の変化	備考
河川環境	1	福島・宮城	阿武隈川水系総合水系環境整備事業	その他	―	―	H19 ― H19	H31	4.3 （―）	18%	2.6	－	6.7	9.9%	観光圏整備実施計画の認定を受け、地域の観光振興に対する機運が高まってきており、魅力的な水辺空間整備の推進が求められている。 また、川とまちが一体となったまちづくりを契機として、賑わいのある水辺空間整備の推進が求められている。	・概成目標年は、整備予定となっている事業の完了予定年である。 ・平成17年4月に創設された「総合水系環境整備事業」により、各事業を水系毎にまとめて計画・実施することとなった。これに伴い、事業評価も水系単位で行う。

事業名	NO	県	事業箇所名	評価対象理由	前回評価時の評価理由	前回評価年	事業化用地着工工事着工	概成目標年	事業費（億円）※注1）	進捗率	費用便益比 B／C 今回	費用便益比 B／C 前回	純現在価値 NPV（億円）	経済的内部収益率 EIRR	社会情勢の変化	備考
砂防	1	秋田・岩手	八幡平山系直轄火山砂防事業（秋田駒ヶ岳）	その他	―	―	H17 H17 H18	H40年代半ば	185 （―）	6.4%	1.3	－	33	5.4%	被害想定区域内には住家、農地、公共施設のほか、秋田新幹線、国道46号、国道341号などの重要交通網が発達している。また、秋田駒ヶ岳周辺は十和田八幡平国立公園に指定されており、また、乳頭温泉郷、田沢湖、スキー場等の観光資源に恵まれた一大リゾートが形成されている。 避難等の防災対応を目的とした「噴火警戒レベル」が、全国の火山108のうち26番目、東北では5番目として平成21年10月27日に導入され、噴火警戒レベル1（平常）が発表された。	秋田駒ヶ岳は、概ね40年の周期で噴火を繰り返しており、平成22年は前回の噴火から40年目にあたるため、噴火の危険性が高まっていると考えられる。 このような背景から秋田駒ヶ岳においては、平成19年度に「秋田駒ヶ岳火山砂防基本計画書（案）」を策定し、降灰後の降雨に伴う土石流による被害を防止することを目的として計画的に事業を推進している。